

水稲の生育情報

生育を見て中干しを開始しましょう

概況（6月10日 水稲定点ほ場調査結果から）

6月上旬の平均気温は平年並み、日照時間は平年より長くなりました（図1）。

水稲の生育は、前回の調査（5月30日）ではやや遅めに推移していましたが、今回の調査では平年と比べて草丈は高く、茎数も2地点で例年より多く推移しており、おおむね順調な生育となっています（表1）。全調査ほ場にて、中干し可能な茎数を確保できています。

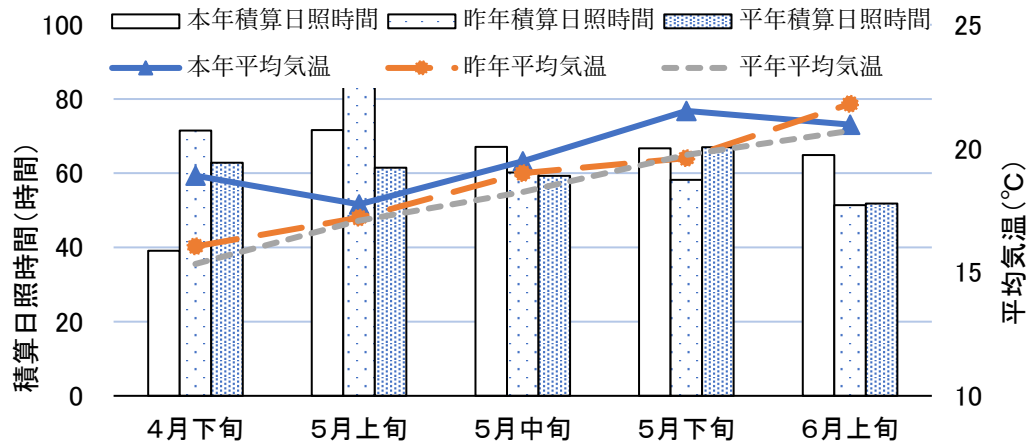


図1 4月下旬から6月上旬の旬別平均気温と日照時間(古河アメダス)
 (注) 平年値は1991~2020年の平均値

表1 定点ほ場の生育調査結果（令和6年6月10日現在）

品種	調査地点	田植日	植付本数		草丈 cm	茎数		葉色 葉色板
			本/株	株/m ²		本/株	本/m ²	
コシヒカリ	坂東市	4/29	4.6	15.2	48.9 (43.6)	40 (438)	600 (438)	4.1 (4.6)
	境町	4/25	4.5	13.9	48.1 (43.0)	28 (435)	395 (435)	4.6 (4.7)
	五霞町	5/7	4.8	15.9	39.4 (37.5)	28 (384)	446 (384)	4.3 (4.6)
	古河市	5/11	4.5	15.9	43.0 (39.3)	22 (414)	354 (414)	4.4 (4.5)

※()内は過去5年間の平均値。

今後の栽培管理

茎数を確保したほ場（茎数 330~350 本/m²以上）では、すぐに中干しを行いましょう。

近年、コシヒカリにおいて、乳白米の発生による品質低下が問題となっています。農業研究所水田利用研究室（龍ヶ崎市）の調査では、籾数増加に伴い乳白米の発生率が上昇することが分かっています（図2）。中干しにより過剰な分けつを抑えることで、総籾数の増加を抑え、乳白米の発生率を減少させる効果が期待できます。

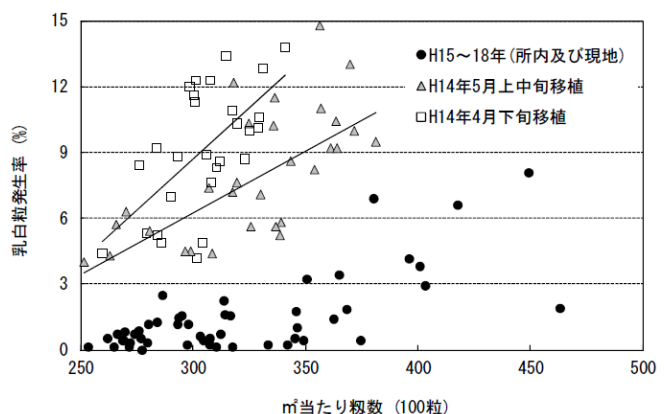


図2 コシヒカリでの乳白米発生率と m² 当たりの籾数の関係
 (水田利用研究室調査、龍ヶ崎市)